

# N P O の 取 り 組 み 事 例 一 覧

県自然保護課調査(平成18年10月)

団体名	調査・研究	資料・情報	計画・指針等の検討・提案	具体的な事業	普及・教育・啓発
城之内 健一 (個人)	○利根川除草工事で草の種類別の調査目的：草の種類によって刈りあがりムラが出来る、その対策に草刈り車の速度を草の種類によって速度を変え手戻りのないよう施行する。堤防にマムシなどの生息地もあるので危険防止の面から調査する。	除草工事の目的を、土木施行管理技士のレポートでまとめ、千葉県建設業協会HPに記載 http://www.chikenkyo.or.jp/tenbou11-16.htm	千葉県国土整備部主催のCCIコンテストにおいて評価を得ている。カラシナ・・・モグラ・・・ミミズ・・・堤防の漏水	ホームページにおいて、堤防の草とミミズとモグラから漏水の原因になる因果関係のパネル展示。	現場地域住民と自然観察会実施
NPO法人印旛野菜いかだの会	今日の印旛沼では、絶滅したマシジミ(2枚貝)が流域の谷津田の小川にたかろうじて生息しているのを発見！また、タナゴ・メダカ等多くの水生生物が生息しており、タナゴと共生するいし貝も発見！このマシジミ・水生生物の調査を継続実施して、水質浄化に欠かせないマシジミ・水生生物の保護・保全活動を実施しています。 環境に優しい環境生態工学(バイオエコエンジニアリングの手法)こそが21世紀に求められていて、生物多様性による食物網を構築させることが重要であり、食物連鎖が起きることで、生態系の安定化をもたらす、多様な水生生物を育むことで、窒素・リンの形骸排除に寄与し、水質浄化に貢献します。この環境保全された水路を小・中学生の体験環境教育の場としての活用を促進し、千葉県関係機関・他NPO団体・流域行政協働で生物多様性が構築出来ます。	○調査地区水路の水生生物調査一覧表・写真集 ○調査内容を県警機関と検討し、水生生物育む水路の保護・保全を推進し、生物多様性のモデル地区を構築します。	○八千代市保品地区谷津田水路○佐倉市大佐倉地区谷津田水路○印旛村地区谷津田水路 マシジミ・水生生物調査で、上記水路には、貴重種の水生生物が生息しており、水路管理者・農業者(地権者)の協力を得る事で、市民参加型の協働による生物多様性保全・再生を推進することで構築出来ます。(例)八千代市保品地区谷津田水路約900mは、関係機関との会議が行われ、18年12月より保全プロジェクトチームを発足させて、生物多様性の保護・保全の取り組みが開始します。	○印旛沼流域全河川支流谷津田水路マシジミ・水生生物調査と保護・保全活動 ○生物多様性保護・保全活動⇒関係機関・流域行政・農業者・他のNPOへの協力依頼	小・中学生環境学習(年4回実施) ○水路脇広場での体験環境学習 ○水路での親子釣り大会 ○水路での生き物とのふれあい体験学習 ○流域市民参加の水生生物観察会
成東・東金食虫植物群落を守る会	○成東・食虫植物群落の植物相調査 ○成東・東金食虫植物群落内の植生調査 ○保護増殖調査委員会、検討会への協力	2000年～2003年に行われた国指定天然記念物「成東・東金食虫植物群落」保護増殖調査報告書に協力、維管束植物の目録の作成を行った。	2000年～2003年に行われた国指定天然記念物「成東・東金食虫植物群落」保護増殖調査に協力、その結果「成東・東金食虫植物群落」ミュージアム構想ができた。	○成東・東金食虫植物群落において食虫植物タヌキモ・モウセンゴケの他ミズトランノオ保護増殖に協力。○セイタカアワダチソウ・メリケンカルカヤ・ニワゼキショウ類の抜き取り。○野焼き・ヨシ、ススキ株の掘り取り。	○成東町(現山武市)教育委員会が発行した冊子「国指定天然記念物成東・東金食虫植物群落「がた」」の編集。○「食虫植物子ども教室」を毎年夏休みに開催(本年で13回)：案内用葉や看板の編集に協力、花ごよみの作成。○年3回自然観察会開催。講演会を開催。見学者や団体の案内。案内用写真カードを見学路へ設置。HPでの案内。
夷隅郡市自然を守る会	①ゲンジボタル幼虫の上陸調査(1990年～)②ゲンジボタルの里の河川の生物調査(2003年～)③トンボの生息分布調査(1991年～)④夷隅川河口北岸の海浜植物調査(1992年～)⑤南総地区の谷津田の現状の調査(1995年～)⑥アカウミガメの上陸産卵調査(1996年～)	①夷隅川河口北岸の海浜植物分布調査(パネル：作成中)いすみ市のゲンジボタル(絵葉書による生態写真集)③いすみ市山田地区におけるゲンジボタルの上陸と羽化に関する調査結果(報告資料)④海中桜再現実験報告書(冊子)⑤いすみ市高谷・トンボの沼周辺におけるトンボの確認種リスト⑥ゲンジボタル観察ガイドブック(冊子)	①海の資料館構想(夢鯨の会と協働) ②ゲンジボタルの生息環境に関する提言を含め各機関に複数の提言を行なっている(がここでは省略)	①トンボの生息調査と保護活動②ビーチクリーンアップ③スナメリウォッチングと海の観察による、自然観察・自然保護型のクルーズ構想④アカウミガメ上陸産卵調査と海岸保全活動⑤ミヤコタナゴの生息地域の調査と保護活動⑥菜の花エコ・大原による循環型社会形成に向けた取り組み(菜の花エコプロジェクト)⑦環境フェアへの出展などは複数あるので省略	①自然観察用ガイドブックの作成と配布(ゲンジボタル・トウキョウサンショウウオ・干潟の小動物・磯の自然観察、など多数) ②自然観察会の実施(ゲンジボタル、トンボ、磯、干潟、砂浜、冬鳥、里山、川の生物、クサフグ、など多数。年5～6回実施) ③小中学校への講師派遣、観察会の講師派遣など
特定非営利活動法人 NPOさとやま	①流山市市野谷の森と周辺の動植物調査(NPOさとやま独自調査) ②流山市新川耕地の野鳥調査(NPOさとやま独自調査) ③流山市西初石の森動植物調査(流山市委託) ※いづれも継続調査中	①「材木の住む市野谷の森」自家出版冊子動植物目録掲載②市野谷の森自然観察会(月1回開催)動植物目録あり	①国土交通省地域資源活用構想調査受託：対象地は利根運河で利根運河エコミュージアム構想と名づけて提案(平成16年度) ②千葉県へ流山市市野谷の森の保全構想「流山自然観察の森基本構想」-材木が生息環境管理の提案-(平成7年9月) ③千葉県へ市野谷の森の保全・種の多様性を高めるための生態学的管理手法の提案(平成9年3月)	①流山市市野谷の森の保全活動 ②流山市環境デー「環境シンポジウム」出展 ③我孫子市「ジャパンバードフェスティバル」出展 ④流山市景観形成作物栽培受託 ⑤流山市西初石小鳥の森の管理維持受託	○のしたいな市野谷の森の自然ガイドブック作成○毎月1回市野谷の森の自然観察会(野鳥・植物など)開催、流山市環境デー新川耕地の植物観察会開催 ○流山市小中学校のビオトープ造成の設計と指導担当○流山市小中学校の総合的学習に講師派遣○流山市主催利根運河ウォーキングの野鳥と野草講師派遣とガイドブック作成担当
さくら・人と自然をつなぐ仲間	○市民による谷津田調査 独自の取り組み ○2000年より市内主要谷津数箇所できき物調査 ○ニホンアカガエル卵塊、ムラサキゴケ、ハグロトンボ等の定量調査、ヘイケ、ゲンジボタル調査は佐倉市、他市民団体と協働 ※手法：現地調査	○『市民による谷津田調査』2001年3月、300部作成 残部無し ○『市民による谷津田調査』004年3月、50部作成残部無し	○『さくら・水と緑のまち』1999年9月、200部作成 ○「佐倉まるごと里山公園」まちづくり構想 提言 2000年2月 ○畔田沢に魚道を提案、佐倉市により設置 2000年10月 ○「下志津・畔田地先公園予定地(仮称 佐倉西部自然公園)土地利用計画案」提言 2006年2月	○下志津・畔田の谷津において佐倉市能谷津保全整備事業に協力 ○行政と協働 ゲンジボタル発生地の保全活動	○シンポジウム「佐倉の谷津について考えるシンポジウム」共催、2006年5月 ○観察会「ケビンと歩こう！」下志津・畔田で共催、2006年5・8・10月 ※上記供に佐倉市環境政策課、(財)佐倉緑の銀行と共催
館山野鳥の森ボランティア会	館山野鳥の森ボランティア会の結成(平成12年度)以来毎年つきに2回の頻度で、館員が午前6時から8時に野鳥の森構内で観察される野鳥を記録し続けている。その結果これまでに15目32科77種が観察されている。また、構内の植物についても、観察調査を継続している。	(1)の野鳥の種類についての結果は、月に2回、館山野鳥の森あるこうマップに掲載して、現地で配布。平成18年8月分からは、HP上にも公開。	—	佐倉市能谷津保全整備事業に協力	野鳥の森主催の年間催事(月1回程度)の際に、ボランティア会員が2～3名ずつ講師として参加し、自然観察会や探鳥会への協力を続けている。 また、県内公民館の催しでの野鳥観察会などへも、講師として協力をしている。
緑の環・協議会(みどりのわ)	—	—	—	—	○地域ESDミーティングの開催：谷津田里山の違法砂利採取跡地復元をテーマに土地改良区、地元地区、周辺都市住民に状況を説明し県内諸団体の参加の元、知見を集め情報を交換する。 ○地権者、地元地区などの里山保全活動地の見学会○意見交換会開催
NPOサポート技術士センター	—	—	「県とNPOとの協働事業提案」に「印旛沼流域河川の上中流域における水生生物層と塩素消毒の影響調査」を提案。*農業集落排水処理施設の塩素消毒	○ふなばし環境フェア(6月10日、船橋中央公民館)：松尾町で実施している「田んぼの学校」等に参加している活動を写真で展示。 ○山武市(旧松尾町)のメダカの水路、環境配慮型農業用水路整備の工事計画に住民参加をつなげる協力を行っている。(山武市の委託)	—

団体名	調査・研究	資料・情報	計画・指針等の検討・提案	具体的な事業	普及・教育・啓発
生活クラブ生活協同組合 千葉	①自生GM(遺伝子組み換え)ナタネ調査時活動(2005年、2006年) 昨年に引き続き、3月下旬から4月中旬にかけて、全国で自生GMナタネ調査。身の回りのナタネ(菜の花)を採種し、調べた。 ②旭市のサンライズプランを通して、全農、旭市、生活クラブ、旭愛農と共に田んぼ、畑の生き物調査を行なっている。	① 自生GMナタネ調査活動(2005年、2006年)資料あり ○千葉県内では2006年、238検体中5検体にGM陽性反応が出た。 ○2次検査で陽性だったのは、千葉市4検体、成田市(旧大栄町)1検体。 ○千葉市の4検体のうち、1検体はラウンドアップ、パスタとも陽性だった。このことは、2種類の除草剤に耐性をもつGMナタネが生えていたことを意味する。○ラウンドアップ(またはパスタ)の除草剤を使ってもナタネは枯れないようにとGMナタネが開発されている。しかし、現在ラウンドアップとパスタの両方の除草剤でも枯れないGMナタネは開発されていない。○今回の調査結果で、2種類の除草剤に耐性をもつGMナタネがあることがわかり、原産地カナダあるいは千葉県内(こぼれ落ち自生)での自然交雑(遺伝子汚染)が原因と思われる。 ②タム研究所の調査データは旭市で保管している。	①-1 自生GMナタネ調査活動(2005年、2006年)について ○今秋、2次検査で陽性千葉市、成田市、千葉県と協議会を設け、検査結果の情報を提供し、意見交換を行った。市民による調査活動にも限界があり、次年度、行政も一緒にできること(調査する人・費用など)を検討してほしいと要望した。 ①-2 食品等の安全安心確保のための条例づくりについて ○遺伝子組み換えされたナタネが自生し、自然界での交雑の危険性が危惧される中で、安心して暮らしたいため、条例づくりに積極的に参画してきた。○「遺伝子組み換え作物の栽培に関する指針」検討委員会における検討過程に、より多くの県民(消費者・生産者)の声が反映されること。また、食品の安全性のみならず、作物を生産する環境が守られるよう、県庁各部局の連携により、県民が納得行く指針になるよう、千葉県議会議長に請願書を12/5に提出した。 ②旭市では、サンライズプランを通して、総合教育に身近な地域の生物調査を提案している。この取組みがさらに広がる事を期待している。	① 自生GMナタネ調査活動 ② GMOフリーゾーン宣言運動 ○遺伝子組み換えされた作物や動物など、生産しませんが意思表示する生産者、生産面積をふやす活動 ③ 種子と農法 ④ サンライズプランを通じた地域での産物の産直事業	① 遺伝子組み換え作物食品に関する学習を地域で開催 ○遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーンに参加 ② 旭市と環境調査を実施した小学校と生活クラブと環境調査の発表会を実施。 ○小学校間でインターネット交流会実施
我孫子野鳥を守る会	1. 手賀沼水鳥カウント:手賀沼で見られる水鳥の種類と個体数を月1回調査。1977年より実施し今年で30年目となる。 2. 手賀沼ビオトープの鳥類調査:千葉県環境財団より「手賀沼ビオトープの鳥類調査を受託し毎月1回、出現種と個体数のカウントを実施し報告。今年で8年目となる。 3. 会員が観察した手賀沼周辺の野鳥記録を1972年よりデータベースとして収録。同地域で見られた絶滅危惧種等の記録も整理している。	○定期発行物の情報誌として「ほーほーどり」を年6回発行している。2006年11月現在193号発行している。 ○書籍の刊行 「手賀沼の鳥—20年の観察記録」1994年刊行 「手賀沼の鳥II—30年間の変遷 2004年刊行 当会は1972年に発足して1994年に20周年、2004年に30周年を迎えた。その節目に記念事業として手賀沼とその周辺の鳥の観察記録をまとめ「20年の観察記録」を発刊、さらに「30年間の変遷」はその後10年間の観察記録を追加し、手賀沼とその周辺の鳥類目録、手賀沼の水鳥の個体数調査に手賀沼とその周辺地域で生息が危惧される鳥類をあらたに加えたものである。掲載された写真は全て会員の撮影による。	千葉県親水広場の「水の館」内に常設の鳥の写真を展示する。展示には当会会員撮影の写真を使用し、会の活動内容も紹介することで計画を進めている。 我孫子にコウノトリを呼ぶことができる環境整備の推進を検討する市当局に対し、実現の条件、可能性を様々な角度から検討して提案するための勉強会を企画している。	○月1回、手賀沼で定例探鳥会を1972年より実施、その他遠出探鳥会、一泊探鳥会を通じ、野鳥や昆虫、植物など多様な生物に実際に触れ、環境問題を実感して貰っている。 ○環境保全活動として、当会行事として「手賀沼クリーン作戦」「ホテルの観察会」実施。「手賀沼ふれあい清掃」参加。環境フェアの出展として、「手賀沼流フォーラム」にパネル展示で参加。「手賀沼学会」「市民活動フェアinあひこ2006」に講演とパネル展示で参加。	○他団体との探鳥会の共催 ・市民参加のバードウィーク手賀沼探鳥会(財)山階鳥類研究所、我孫子市鳥の博物館、当会と共催。我孫子市環境レンジャー、我孫子市、当会と共催で市民手賀沼探鳥会実施。 ○独自活動 ・「ジャパンバードフェスティバル」に参加、パネル展示、紙芝居の製作と出演、庭に鳥を呼ぶ方法の展示、鳥の餌製作、手賀沼の船上バードウォッチング、定点バードウォッチングで水鳥の現況と鳥を通しての環境問題を市民に啓発、広報。 ・我孫子市環境レンジャーの公開講座で手賀沼の鳥の概要を市民に説明。 ・学校や団体の依頼に応じ手賀沼周辺の探鳥会を指導。 ・美しい手賀沼を愛する市民の連合会10周年記念の会で「手賀沼周辺の景観…人と鳥の視点から」を発表。環境問題は視点を変えた見方の大切さを訴えた。
市原植物研究会	○昭和34年に会を発足、現在の会員約80名 ○過去に市教育委員会の要請で「市原植物目録」を作成。また、大福山植生調査を行い同教育委員会へ報告。そして県へ。 ○高滝神社の森とダム水没予定地の植生調査、市民の森や開発予定地等の調査を行い会誌「野草の友」に発表。	平成2年～5年市原市が県立中央博物館に委託して行った「市原市自然環境実態調査」を支援。調査員37名中31人が当会員。現在県内の野生植物をメッシュに調査をしている。前県立中央博物館副館長の大場達之博士に協力している。	会員各自が各地域・地図等で公民館活動やサークル活動で、また、国や県の施設等で指導的立場で活動し、行政に対して発言している。	主に市原市内の団地とその周辺の植生調査を計画中	月1度の自然観察会の実施。 年刊誌「野草の友」の誌上で会独自の調査研究や、会員個人の調査研究等の報告や発表の場としており、お互いに刺激しあひ知識の蓄積や人材の育成に努めている。
NPOホテル野	来る12月9日(土)に、流山市A地点の調査と研修会を開催予定。 A地点とは、今夏ヘイケボタルを大量に見つけた地点。研修は千葉県環境財団の環境学習アドバイザー制度を利用。現地にて視察と生物調査後、研修会を行なう。	調査・研究項目の内容の他に、NPOホテル野が利用している有機無農薬田んぼで、昨年よりイチョウウキゴケ、タコノアシが出現。写真のみ保存。	流山市A地点の保全について、市の環境保全課宛に「A地点のヘイケボタルの重要性と保全計画について(提案・要望)」の書面を8月23日付で提出済み。	・有機無農薬田んぼの実施 ・ホテルの幼虫飼育と里親制度を実施(51組約100名参加) ・11月18日流山市協働まちづくりフォーラムに出展参加 ・11月19日生涯学習フェスティバルin県民プラザに出展参加 ・12月3日流山市環境シンポジウムに出展参加	・5月6日ホテル野田んぼにてヘイケボタルの幼虫放流会(125名参加) ・5月13日新川小学校5年生72名が田植え体験 ・6月30日鯖ヶ崎小学校3年生105名に出展参加 ・9月21日新川小学校5年生72名が福刈りに参加 ・12月17日中央学院高等学校生物部にホテルの講演予定
高根フレンドみちくさ	海老川上流の高根川で水生生物調査を実施「年1回」(千葉県環境生活部水質保全課水質指導室委託)	毎月発行する会報「みちくさ」に植物(主として野草)の情報を掲載することあり(頻度は少ない)	「海老川流域水循環再生推進協議会」の席上、水質の保全・乱開発の防止を提言している。	①里山のゴミ拾い、下刈りなど月に2回実施②船橋市環境フェア、生き生き展に毎年出展。③小学生を対象に「里山探検」など実施	夏のホテル観察会を始め、季節ごとの自然観察会を開催。
千葉県自然観察指導員協議会	千葉県大草地区谷津田や、小山町地区の生きもの調査など当協議会が千葉市や日本自然保護協会などの調査に協力するケースは多々あるが、当協議会が独自に、または受託して行ったことはない。	生物多様性に係わる資料として整理し、まとめた資料・情報は無い。ただし、各地で当協議会が主催した観察会の記録・情報は全て当協議会の会報「しおかぜ」に掲載され、1983年12月以降現在に至るまで掲載保管されている。なお、1983年12月から2003年1月までの会報は合本として編集され、県内の主な図書館などで閲覧可能である。	<土気東地区土地整理事業に伴う昭和の森周辺の自然環境破壊に対する保護・保全活動> ○1997. 5. 22 「土地区画整理事業に係わる昭和の森内の調整池計画に関する要望書」を協議会会長名で千葉市長宛て提出し、自然保全のため事業の撤回を求めた。○1997. 7. 31付千葉市長からの回答書に対し、「千葉市都市計画事業 土気東特定土地区画整理事業に関する要望書」を提出し、①自然豊かな流域を残存緑地としてより多く残してほしい②調整池3号の設置位置変更③希少植物の全種、全個体の適期・適地への移植④該地域の自然環境の保全などについて協議する、市、施工者、市民団体および当協議会による定期的な協議機関の設置等6項目の要望を提出した。○～現在: 要望した協議機関「土気東環境連絡協議会」が1998. 7. 30. に開催され、以降、その協議会活動を通じて環境保全・保護に関する提言や活動を行っている。 <成田新高速鉄道線建設事業および一般国道464号北千葉道路建設事業に係わる環境影響評価準備書に対する意見書の提出> 2005年1月15日付で成田高速鉄道アクセス線に当協議会代表名で当該環境影響評価準備書に対する意見書を提出し、計画そのものの見直し(経済投資効果など)を提言した。それでも鉄道の投資効果が期待される場合は、千葉県レッドデータブックの最重要保護鳥類や重要保護鳥類などが多数生息する自然環境に、もっとも影響の少ないルート(サンカノゴイの生息地を分断しないルート)を再検討するよう要求した。	○昭和の森ゲンジボタル愛護会活動&カタクリ保護・保全活動: 2001年より千葉市緑公園緑地事務所と協働で、昭和の森内に自生するゲンジボタルやカタクリなどの貴重種植物が生息することの出来る環境を保全するため、里山管理、水質・水量管理、水路整備などを行っている。また、ゲンジボタル観察会、カタクリ観察会ガイドを行い、その保護・保全のための環境対策、里山・里川管理の必要性を広く市民の方々に理解してもらおうと努めている。	○自然観察会の開催 ・協議会主催の自然観察会: 昭和の森自然観察会(12回/年)、昭和の森子ども観察会(3回/年)、東葛自然観察会(6回/年)を開催している。当協議会活動の基本理念は「自然観察からはじまる自然保護」であり、観察会を通じて、自然が好きになり、自然を理解し、自然を大切に自然の心を育むよう活動を展開している。特に、千葉市緑公園緑地事務所と共催の昭和の森自然観察会は本年未だ15周年を迎え、その間180回の観察会を行っている。また、観察会資料は「昭和の森自然観察会資料集」として5周年記念、10周年記念として第1回以降の資料を編集し、県下の主な図書館などで閲覧可能であり、広く一般の方々の参考になればと願っている。(来年1月に15周年記念資料集を発刊予定) ・小学校自然観察支援活動: この数年間、協議会の重点活動として展開している一つは、小学校自然観察支援活動である(環5～6回/月)。小学校の授業の一環として、子供さんたちが自然に接し、自然に感動し、自然を大切に豊かな感性を育むお手伝いが出来ればと念じている。 ・協議会会員が主催している自然観察会: 自然観察会や自然保護活動を行う為、当協議会会員が千葉県下で約50の活動グループを主宰している。これらグループはそれぞれの地元でその地域に密着した活動を行政等とも連携しながら展開している。

団体名	調査・研究	資料・情報	計画・指針等の検討・提案	具体的な事業	普及・教育・啓発
千葉県野鳥の会	○千葉県水鳥一斉調査（冬期、春期、秋期の3回）○鳥獣保護区等内野生鳥獣生息環境調査（千葉県調査委託調査、毎年指定期間の更新が予定されている4ないし5鳥獣保護区を対象）○カワウねぐら、コロニー調査（県及び他の団体等と協働実施）○サギ類ねぐら調査（他団体等と協働し実施）○その他、会として必要と思われる野生鳥類に関する調査。	○開放「房総の鳥」（行事案内、行事報告その他野鳥情報を毎月掲載）○千葉県水鳥一斉調査記録（1973年から2003年までの記録をCDに収録）○リーフレット「なんだろう」（千葉県で見られる主な野鳥の紹介）○リーフレット「千葉県探鳥地案内」（千葉県内の主な探鳥地の照会）	○野生鳥類保護を主とする自然保護に関する意見提出 ○三番瀬の保全に関する意見書提出 ○鳥獣保護事業計画に対する意見書提出 ○その他、自然環境保全に関する意見書及び要望書提出	○サギ類、カワウ、コアジサシなど特定の鳥類の保護管理に関する対策に協力 ○谷津干潟の環境保全に関する対策に協力 ○ジャパンバードフェスティバル等に出席	○毎年百回以上の探鳥会、観察回答を開催 ○県や市町村、県民の森、他団体等が主催する探鳥会、自然観察会に講師派遣及び行事運営協力
流山野鳥同好会	千葉県大草地区谷津田や、小川地区の生き物調査など協議会が千葉市や日本自然保護協会などの調査に協力するケースは多々あるが、当協議会が独自に、または受託して行ったことはない。	○探鳥会確認野鳥目録：会報（年4回）に掲載し、会員、関係団体、市役所等へ送付	—	—	探鳥会の開催 対象者：会員（約90名）、一般参加者 場所：流山市内を中心に、県内、近県 開催数：10回／年
日本野鳥の会千葉県支部 NPO法人野鳥ちば	（自然保護課委託事業） ※その後随時独自調査（継続中） ○三番瀬スズガモなど消化管内容物調査 ○三番瀬シギ・チドリ採餌状況調査 ○千葉県内のサギ類コロニーの調査活動 ※その後独自調査（継続中） ○千葉県内の猛禽類の生息調査○千葉県内の夜行性鳥類の生息調査（全3次にわたる）○利根川河川敷におけるオオセッカ生息状況調査（企業庁委託調査） ○富津埋立地における鳥類生息調査（全3次にわたる）（港湾空港技術研究所委託調査） ○盤洲干潟に飛来する鳥類の同定および計測業務（独自調査） ○利根川流域におけるコジュリン生息状況調査○印旛沼におけるサンカノゴイ生息状況調査（継続中）○三番瀬と谷津干潟の間の渡り鳥移動調査（全3次） ○三番瀬と谷津干潟の間を移動する渡り鳥の飛行高度調査○東京湾におけるスズガモ生息動態調査（継続中） ○東京湾奥部における青潮発生動向調査（継続中） ○谷津干潟のアオサが渡り鳥に与える影響に関する調査（継続中） ○アオサの生育条件調査（室内実験）（継続中） ○千葉県内のオオタカ繁殖状況調査（継続中） ○洲崎を秋季に通過する渡り鳥調査（3次にわたる） ○富津岬を秋季に通過する渡り鳥調査（継続中） ○千葉県内のカワウコロニーに関する調査（継続中）	支部報「ほおじろ」（月刊）の鳥だより覧、HP上の鳥 ※現在集計中	三番瀬再生、印旛沼北部などに関する意見多数あり。盤洲の自然環境保全地域化への報告。	○日本で初めての第1回里山シンポジウム（流山市にて、財団法人日本野鳥の会と共催） ○全国密猟対策連絡会など ○プリズベン市での湿地再生国際ワークショップ ○プリズベン市とのさまざまな国際協力 ○プリズベン市との湿地再生に関する多様なシンポジウム開催	○年百回以上の探鳥会開催など ○千葉港ポートパークにおける夏休み親子干潟観察指導 国交省（3年継続） ○盤洲干潟における国交省港湾局管理職研修指導 国交省（3年継続） ○国交省管理職研修会指導（NGPと行政の湿地再生に関して） 国交省 ○エコマインド養成講座指導 千葉県環境財団（毎年） ○その他、学校、企業に向けた自然観察指導 多数回
四街道自然同好会	○平成13年春～14年冬：四街道市内の「郷土の森及び周辺」の生物調査を実施し、報告書にまとめた。（但し、暫定報告） ○平成15年3月：四街道市内レッドデータブック記載種を調査し、報告書にまとめた。（但し、暫定報告） ○平成18年8月～：現在、四街道市総合公園の生物調査（主に植物）を実施中。	○郷土の森生物調査報告書（暫定） ○レッドデータブック記載種から見た四街道の自然—四街道市内レッドデータブック記載種（暫定）—	四街道市当局が策定を企画している「緑の基本計画」に対して、「四街道市みどりの市民協議会」の一員として、参画し、市民案を提出した。	○里山保全活動の実施 （1）四街道市内の里山（郷土の森等）の整備を実施（但し、現在休止） （2）成田市遠山小学校の里山（駒の森）の整備を実施	○自然観察会の実施：四街道市内の里山、谷津田及び隣接の千葉、佐倉地区の里山等、全13区域について定期的に自然観察会を行っている。（月4～5回）
印旛沼広域環境研究会	平成14年～18年まで、5年間、佐倉市立白井小学校5年生に無農薬有機肥料「米の精」（コメヌカベレット）を実施。生物の多様性が別紙の通り実証され、12月3日（日）佐倉市志津コミュニティセンターにて「白井小田んぼの生き物たち」（別紙）発表することになっている。（なお、このフォーラムは「印旛沼あつが事業」という型で、NPO推進課の委託事業となっている。）	各種調査結果、NPO印旛ニュース	一昨年、国連大学において「農業と生物多様性の調和的発展について」というテーマでフォーラムが行われた。水田・谷津田・里山・畑等の荒廃は生物の多様性が急速に失われてしまいました。今、農林水産省は来年度よりやっと「農地・水・環境の保全向上のために」という事業を行うことになりました。私たちの環境問題の課題は如何に行政の縦割りを修正することができるかにあると思う。	—	—
花見川の環境を守る会	里山活動の里山手入れ作業（草刈り、枝打ち、みつかぎ、つたひき、伐採作業）に入る前の里山の①地権者調査者：昔の思い出、好悪の歴史語り②樹木調査③手入れ作業前の打合せの生き物の観測④沼森川海の生き物調査	大家山、dájia de shán みんなの山としてまとめ（大家山は、地図の名前でなく、地元の人が言い習わしている名前（「将軍家の山」の意）で、中国読みし、それを「みんなのやま」と再び、日本語にした。生物多様性やふれあい、にぎわいを示す。）	花見川は5大名所に選ばれました。この活動を森川海に広げていきたいものです。日本や世界に広がる生物の多様性、子供や高齢者がつどいあう福祉に満ちた自然を健全にしたいものです。自然エネルギーに関して、資金の援助をもう少しいただきたい。私たちの活動がミュージアムです。	千葉の海山川について ①子供や高齢者の世代を超えたふれあいの公園とする事業 ②バイオマス・炭・自然エネルギーの促進 ③生活の環境形の自然浄化のプロジェクト ④子供の環境教育	花見川の環境を守る会は千葉市のボランティア、体験学校受け入れ団体として登録。自然の中での清掃活動、腐葉土作りからのエコ農業へのイベント。
八千代自然と環境を守る会	1. 水辺の環境調査（自然度と水質）年1回 2. 保品間谷谷津での植物調査	○在来野草保存活動10年の歩みと保品野草保存園周辺の植物目録 ○八千代市湧水マップ	—	1. 在来野草保存活動として、八千代市保品間や谷津の休耕田を借りて、保品野草園を維持管理 2. NPO祭り、生協祭りなどでの出展 3. 2002年八千代市水辺の環境調査、2005年千葉県印旛沼周辺の水草調査当への協力	1. 自然観察会等の開催：毎年、1～2回程度、一般公募の観察会を開いている。2006年度は4月に「春の谷津田を歩こう」、11月に「花見川に鳥を見に行こう」を自然観察指導員の協力を得て行った。 2. 毎年5月に、市営プールで「プールのヤゴを助けよう」を、夏休みに親子トンボ教室を開催
船橋のカザグルマをまもる会	H12年5月に会を設立し、船橋市に残存する絶滅危惧種Ⅱ類のカザグルマの保全とさし木による増殖を行っている。	千葉県立中央博物館からも調査に来て頂いている。	行政（船橋市）に保全対策を依頼している。	自生地の学区の小学校6年生が総合学習の一つとして毎年さし木の講習を実施し、今年は3年目の苗木を校庭に移植している。カラスウリの繁殖がすさまじく、カザグルマが負ける傾向にあり、カラスウリの根の除去を行う必要がある。	カザグルマの紹介のリーフレットを作成している。
江戸川の自然環境を考える会	利根川運河の動植物調査	—	○利根運河エコミュージアムの提案 ○国の堤防事業に対し、設計変更を申し入れ具体的提案を行い堤防を大きく曲げる変更が行われた。（2002、市川市里見公園近く河川左岸堤工事中）	—	○河川環境問題を中心に、湖沼、谷津田、里山、緑地森を含めた水環境干潟など流域を見て考える観察会を毎月行い、この12月で136回を数えている。 ○毎月7月第4（土）に江戸川流域シンポジウムを開催。メインの講師の他に国交省江戸川と市の行政も参加した意見交換の場として13年間続いている。 ○歩いて見よう利根運河冊子発行PR

団体名	調査・研究	資料・情報	計画・指針等の検討・提案	具体的な事業	普及・教育・啓発
北総トンボ研究会	—	流山市市野谷の森のトンボ調査報告※英訳したものは国際トンボ学会などに報告した。	—	—	—
自然通信社	○トンボ調査に基づく環境比較の試み（トンボの生息種を評価して東葛地域のまちの環境度を比較）※英訳はIUCN（国際自然保護連盟）などで高い評価○ニホンアカガエル卵塊調査における考察（2003）○ニホンアカガエル産卵復活に向けた実践的取り組み（2004）○ニホンアカガエル卵塊調査と復活作戦成果（報告書）（2006）○赤トンボ分布調査に基づく比較研究（東葛、北総、上総）（2004）○「アキアカネは利根川を下るか」6608頭捕分類調査（2005）○21ヶ所の赤トンボ調査6399頭捕分類調査（2006）○東葛348社鎮守の森の樹木調査研究：20世紀末の記録として○小櫃川流域のトンボ調査写真報告兼源流～河口まで3年間の調査○松戸市坂川の魚類調査継続中○江戸川・利根川流域の魚類調査継続中	—	—	—	「自然通信」の発行
利根運河の生態系を守る会	猛禽類生態調査、植物調査（利根運河の花ごよみ発行）	—	里山ミュージアムの提案の提案を野田市に行い成果を上げた。	—	—
NPO 人づくり街づくり環境づくり	—	—	○我県をアジアの静脈郵送基地とする構想案（千葉県、日本鉄道貨物輸送へ提案）○佐倉 地域水循環構想（佐倉市役所へ提案）○地域水循環、浄化構想—印旛沼浄化並びに下水未整備地区浄化ネットワーク構想（佐倉市役所へ提案）○極東渡り鳥保護構想（県、市民へ提案）○親水性環境教育公園（造成）、宿泊体験型エコ施設（市、市民へ提案）	○津田保全、環境教育活動 ○子どもの自然遊びを通じて自然に接し環境を体得する活動 ○親水性環境教育公園（造成） 1,300坪に池を配しメダカ・タナゴを飼い井戸を穿ち風力・ソーラー発電で揚水供給 ○農業向けクリーンエネルギー装置 ○上総掘り活動 ○竹林利用安価構造物建設活動	○津田保全、環境教育活動、渡り鳥を含む自然観察会○子どもの自然遊びを通じて自然に接し環境を体得する活動、渡り鳥を含む自然観察会○親水性環境教育公園（造成）1,300坪に池を配しメダカ・タナゴを飼い井戸を穿ち風力・ソーラー発電で揚水供給 ○農業向けクリーンエネルギー装置 ○上総掘り活動 ○竹林利用安価構造物建設活動
有害化学物質を考える患者と市民の会	○県内行政機関管理地における殺菌・消毒等農業使用の実態調査 ○私有地（団地・マンション等）の現状調査 ○調査ヶ所の対応状況・取り組み等の現状調査	○調査結果（柏市・松戸市・佐倉市・酒々井町） ○環境中の化学物質に関する書物・刊行物・新聞切抜き等	○実際調査：各自治体での化学物質使用量・種類等（業者・自治体・管理組合）、市民調査・患者数把握（化学物質過敏症）○将来起こり得る事態の予測検討○国や県・市・各自治体住民の連携・役割分担の交渉○取り組みが進んでいる海外からの協力要請○市民・学校教育○佐倉市下志津谷津田公園造成（市、市民へ提案）：市民債での資金化を図る※来春から協働検討が始まる予定○上総掘り2号井戸活動（市民へ提案）※来春から○市民有機農園構想（市民へ提案）※来春から	行政・他団体との話し合い、協力会議	○勉強会、講演会の開催 ○各環境団体への協力呼びかけ
(財) 佐倉緑の銀行	(独自調査) ○(仮) 佐倉西部自然公園モニタリング（佐倉市より受託調査） ○佐倉市西御門環境保全ゾーン自然環境調査 ○畔田沢流域植物調査	—	—	○畔田体験活動：自然公園予定地内での里山保全市民活動を支援（総額5万円） ○特定の動植物保護活動：市民団体・土地所有者に各3000円/年支援、18年度 ミズオオバコ、コウホネ ○鷹匠清水ビートーフ 保全活動支援事業：私有地を無償で借り受け、市民団体に保全を任せる。財政支援有（約5万円）	○シンポジウム「佐倉の谷津を考える」共催 ○ケビンと歩こう観察会：年3回共催（佐倉市、仲間の会） ○巨木観察会、バードウォッチング 各年1回開催
野田自然保護連合会 グループうえっと	○動植物の現況調査：当該年度における確認動植物の目録を行政（野田市）に提出（受託調査）・・・平成10年度から	○野田市の生き物マップ「大切にしよう！野田の自然」平成13年刊 ○現地掲示板を利用した情報提供 ○ミニコミ紙による情報提供 ○当該年度における活動報告を行政（野田市）に提出（受託条件）	○保全活動の年間計画の作成とその実行	○保全活動（除草、不法投棄ゴミの撤去） ○特定の動植物の保護：環境を保全することによってオオスジイトンボ、オオモノサシトンボとともに環境省RD絶滅危惧I類（CR+EN）、（千葉県RDカテゴリーA）、コバンムシ（千葉県RDカテゴリーX）の保護を行っている。 ○水中の環境を保つ為のオオクチバス対策（伊豆沼式人工産卵床の設置） ○沼内に防釣鉄線を張り、ルアー釣が出来ないようにしている。（対オオクチバス、カムルチー、釣り人による踏み荒らし対策）	○自然観察会の開催

# 企業の社会貢献活動に関する調査結果

総合企画部政策推進室調べ  
H18年11月調査

※県内に工場、事業所等を持つ主要企業61社に対するアンケート結果

## 1 企業の社会的貢献活動について

① 御社はCSRを意識して企業活動を行っていますか。

	企業数	割合(%)
行っている	50	81.9
行っていない	2	3.3
どちらともいえない	7	11.5
その他	2	3.3
合計	61	100.0

※8割を超える企業がCSR活動に取り組んでいる。

② 御社では現在どのような社会貢献活動を行っていますか。

	企業数	割合(%)
社会福祉	18	29.5
健康、医学	7	11.5
スポーツ	25	41.0
学術研究	11	18.0
教育、社会教育	19	31.1
文化、芸術	16	26.2
環境	31	50.8
史跡、伝統文化保存	4	6.6
地域社会の活動	43	70.5
国際交流、協力	13	21.3
災害被災地支援	15	24.6
防災まちづく支援	4	6.6
人権	3	4.9
NPOの基盤形成	1	1.6
特に行っていない	4	6.6
その他	3	4.9

※半数以上の企業が環境活動に取り組んでいる。

③ 今後どのような社会貢献活動を行いたいと考えていますか。

	企業数	割合(%)
社会福祉	12	19.7
健康、医学	6	9.8
スポーツ	11	18.0
学術研究	4	6.6
教育、社会教育	15	24.6
文化、芸術	6	9.8
環境	24	39.3
史跡、伝統文化保存	1	1.6
地域社会の活動	31	50.8
国際交流、協力	7	11.5
災害被災地支援	6	9.8
防災まちづく支援	9	14.8
人権	1	1.6
NPOの基盤形成	2	3.3
その他	4	6.6

※4割程度の企業が、将来環境活動に取り組んでいきたいと考えている。